

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年 国語 22人 算数 22人 理科 22人

第5学年 国語 13人 算数 13人 理科 13人

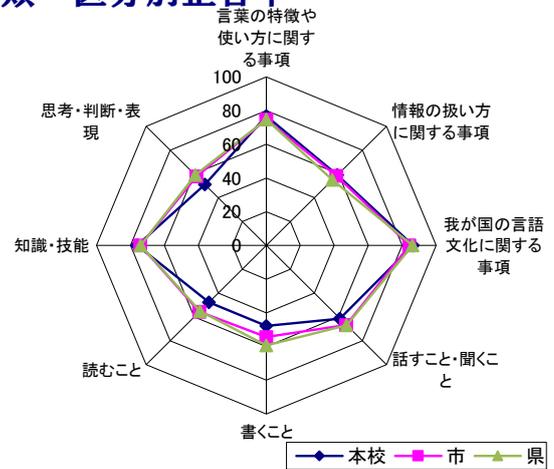
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	76.8	74.7	74.8
	情報の扱い方に関する事項	59.1	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	86.4	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	61.4	66.7	66.9
	書くこと	47.7	54.3	59.3
	読むこと	47.7	55.6	55.2
観点	知識・技能	76.0	74.1	74.0
	思考・判断・表現	51.1	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

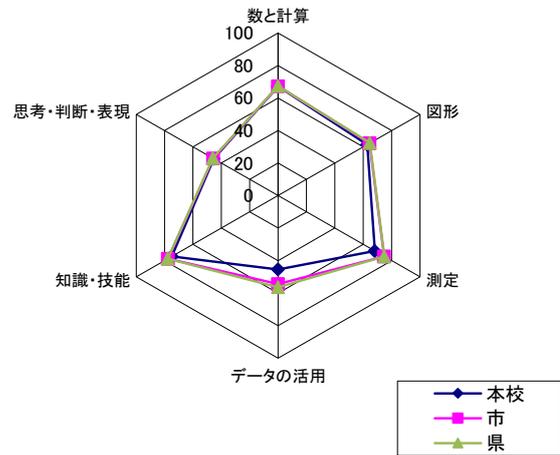
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○漢字を正しく読む問題では、どの問題においても正答率が95%を超え、市の平均正答率をやや上回った。</p> <p>●漢字を正しく書く問題では、3問中2問において正答率が50%程度であった。</p>	<p>・新出漢字の学習では、形を覚えるだけでなく促音化された読みや送り仮名など、授業の中で確かめ、既習の漢字も生活の中で正しく使うように指導を継続していくようにする。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均よりやや高い。</p> <p>○国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率をやや上回った。</p> <p>●国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる問題では、正答率がほぼ50%と半数であり、無回答も13.6%であった。</p>	<p>・多義性を持つ言葉の使い分けを理解し慣れるために、文脈に合った表記や意味を調べ、判断させる練習を取り入れる。また、国語辞典は国語科以外の時間でも利用するように勧め、活用を習慣づけるようにする。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解しているかどうかをみる問題では、市の平均正答率を2.1ポイント上回った。</p>	<p>・既習の漢字から分かりやすい例を挙げ、部首と漢字の表す意味の関係についても理解させるようにする。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○話し方の工夫を捉える問題では、市の平均正答率を6.5ポイント上回った。</p> <p>●話し合いでの発言を基に考えをまとめる問題では、市の正答率を14.6ポイント下回った。また無解答率が22.7%であった。</p>	<p>・スピーチで友達の話した内容について質問したり、自分の考えを伝えたりする活動を多く取り入れることで、話し手が伝えたいことを正確に聞き取ったり、自分の考えをもって相手に伝えたりする力を身に付けさせる。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●指定された長さで文章を書く問題では、市の正答率を10.2ポイント、段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題では、6.9ポイント下回った。また無解答率が27.3%であった。</p>	<p>・国語の時間に限らず、短い感想文や意見文を書く機会を多くもち、苦手意識を減らしていく。字数を決めて文を書いたり、考えを明確にする練習を意図的に行い、書く力の向上を目指す。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○情報の関係を理解し、要約できるかをみる問題では、市の平均正答率を3.2ポイント上回った。</p> <p>●物語文において、叙述を基に登場人物の気持ちを捉える問題では、市の正答率を20.7ポイント下回った。また、説明文において、叙述を基に文章の内容を捉える問題では、18.7ポイント、下回った。</p>	<p>・読み取りをする際には、常に叙述に戻ることや、段落の関係を意識するよう指導していくことで、読む力の向上を目指す。</p>

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.2	67.3	67.4
	図形	62.7	64.5	64.7
	測定	68.2	74.7	74.9
	データの活用	45.5	54.4	56.4
観点	知識・技能	75.0	77.6	77.8
	思考・判断・表現	45.5	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

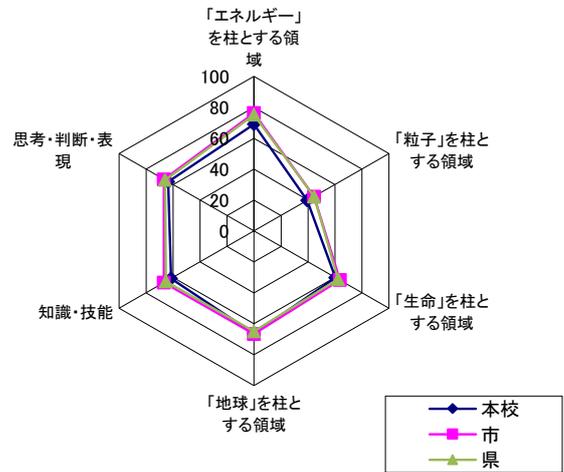
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○2けた÷2けたの計算では正答率100%であり、市の正答率を8.7ポイント上回った。</p> <p>○式の意味を正しくとらえ、言葉で説明する問題では、市の正答率を14.1ポイントと大きく上回った。</p> <p>●大きな数の表し方について正しいものを選ぶ問題では、市の正答率を8.3ポイント下回った。</p>	<p>・定期的にミニ計算テストを行ったり、朝の学習などで復習したりできる時間を確保し、基本的な計算力の向上を図る。</p> <p>・問題に慣れていない児童も見受けられるので、1人1台端末のAドリルなどを活用して、数と計算の問題に慣れたり、更に親しんだりできるようにしていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○円の直径と半径について正しいものを選ぶ問題では、市の正答率を9.6ポイント上回った。</p> <p>●二等辺三角形の作図の問題では、市の正答率を2.9ポイント下回った。</p> <p>●円の性質を考え、コンパスを用いて正三角形が作図できることを説明する問題では市の正答率を11.2ポイント下回った。</p>	<p>・分度器、三角定規、コンパスなどの使い方についてはその都度個別の支援をする機会を増やしていく。</p> <p>・実際に描く時間を朝の学習に設定して、丁寧な作図に慣れたり、理解の定着を図ったりできる時間を確保し、学習の定着を図っていく。</p>
測定	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○地図から道のりを読み取って和を求める問題では81.1%の児童が正答している。</p> <p>●はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題では、市の正答率を9.2ポイント下回った。</p> <p>●測定に関する問題は、いずれも無回答率が市の平均から約10～15ポイント高い。</p>	<p>・はかりや時計など、身の回りの中で使い方や目盛りの読み方を確認していく。</p> <p>・重さや長さ、面積などの単位に触れるときには、身近な物を例に挙げながら学習していくことで、児童の量感を養えるようにする。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○棒グラフからデータを読み取る問題の正答率は72.7%であり、問題を回答した児童の大半が正しく答えている。</p> <p>●目盛りの大きさの違いに着目して正しい棒グラフを選ぶ問題では、市の正答率を5.4ポイント下回った。</p> <p>●データの活用に関する問題の無回答率はいずれも18.2%と、市の平均を10ポイント以上上回った。</p>	<p>・算数だけでなく、社会の授業や図書室の本、掲示物などの身近な資料の中からデータを読み取る経験を重ねていく。</p> <p>・グラフを読み取るときには、表題や縦軸・横軸、目盛りの大きさなどに着目するとよいということを繰り返し指導していき、定着を図る。</p>

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	69.0	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	39.4	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	60.3	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	66.4	66.6	64.9
観点	知識・技能	61.5	66.8	65.4
	思考・判断・表現	63.6	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○実験の結果として適切な記録を選ぶ問題では、市の正答率を7.4ポイント上回った。</p> <p>●磁石の性質や音の性質の理解では、市の正答率を10ポイント以上下回った。</p> <p>●無回答の児童が2割前後いる。</p>	<p>・実験のまとめをするだけでなく、実験のデータから考える時間を確保し、事実や事象を詳しく整理する学習を取り入れて、力の向上を図る。</p> <p>・既習事項や身近な体験とを結び付けて考える機会を意図的に取り入れ、理解が深まるようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●ものと重さの関係を理解しているが、実験の結果に着目して考えの理由を記述することに課題がある。</p> <p>●無回答の児童が3割近くいる。この領域の問題は、全体の最後の問題であることから、問題を解く時間が足りなかったと考えられる。</p>	<p>・実験結果から導きだされることを考え、事実と関連付けて整理することで理科的な見方を培うとともに的確な言葉で表現する時間を丁寧に扱う。</p> <p>・発展的に様々な問題を取り扱い、問題文を読み解く力を伸ばしたい。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○記録カードの内容をもとに、共通点や差異点を見出さず問題は、市の正答率を上回った。</p> <p>○昆虫の育ち方の違いや昆虫ではない理由を記述する問題は、2割近い児童が無回答であるが、回答した児童は全員正答だった。</p> <p>●虫眼鏡の使い方や草文のはかり方を身に付けているかを問う問題では、市の正答率を下回った。</p>	<p>・観察の機会には、虫眼鏡を積極的に活用したり観察のポイントを確認したりして、繰り返し指導を行う。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○太陽の位置の変化を方位で答える問題は、市の正答率を大きく上回った。</p> <p>●温度計の使い方や日なたと日かげの地面の温度変化を問う問題では、市の正答率を下回った。</p>	<p>・身近なところに温度計や方位磁石などを設置して子供たちの目に触れる機会を増やし、更なる定着を目指す。</p>

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定的回答が100%、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定的回答が100%と、児童は学習におもしろさや楽しさを見出したり、将来の自分のためにと前向きに学習に取り組んだりしていることが分かる。また、「難しい問題に出会うと、よりやる気が出る」には、77.3%の児童が肯定的回答をしており、市の平均を大きく上回っていることから、本学級では難しい問題に直面してもあきらめずに粘り強く取り組もうとしている児童が多いといえる。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」への肯定的回答は86.4%と、市の平均を28.4ポイント上回った。日頃の調べ学習や自主学習を通して、いろいろな媒体を通して情報を集めたり、媒体を使い分けたりしている児童が多いことがわかる。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の肯定的回答は95.4%であり、12.3ポイント上回っている。また、「人と話すことは楽しい」に対する肯定的回答は100%である。それと関連し、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答は95.5%、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」の肯定的回答は100%といずれも市の平均を上回っている。このことから、授業の中で話し合い活動を積み重ねてきたことにより、話し合い活動で友達の意見や話をよく聞き、自分の考えを広げたり深めたりすることができる児童の割合が高いことがわかる。人と話すことが好きな学級であるという特色を生かし、話し合い活動を通して互いに学び合える授業の展開を目指していきたい。

○「自分のよさを人のために生かしたいと思う」、「将来の夢や目標をもっている」の肯定的回答はいずれも100%であり、今後自分はどうなりたいかを意識することができている。

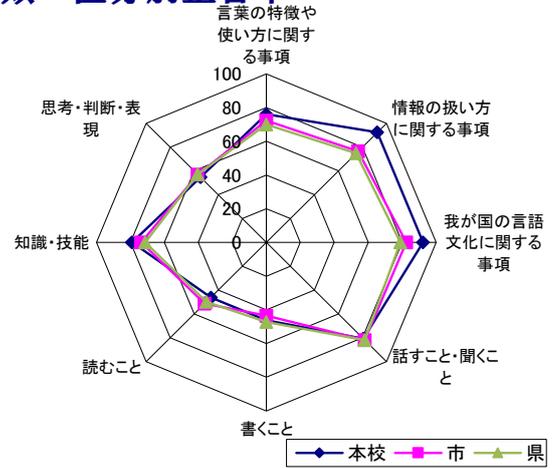
○「家の人と学校での出来事について話をしている」、「家の人は、あなたが褒めてもらいたいことを褒めてくれる」、「自分は家族の大切な一員だと思う」の肯定的回答はいずれも100%である。これは、家の人との温かい関係作りができており、児童が落ち着いて何事にも前向きに取り組んでいる現状の基盤となっていると考えられる。

●算数の学力調査の問題をとく時間について、「やや足りなかった」や「足りなかった」と答えた児童の割合が50%であった。学力調査の問題の形式に慣れていないことに加え、既習事項をスムーズに思い出して活用することが苦手な児童が多いためであると考えられる。これまでの学年で学習した内容についても時々反復練習を行うことで、より一層しっかりと定着させるようにしていくようにする。また、様々な形式の問題に触れさせることで、自信をもってすらすらと問題に取り組める児童を増やせるようにしたい。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	76.1	72.3	70.0
	情報の扱い方に関する事項	92.3	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	92.3	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	80.8	81.9	82.0
	書くこと	46.2	43.5	47.2
	読むこと	46.2	51.4	49.8
観点	知識・技能	79.0	73.6	71.3
	思考・判断・表現	54.8	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

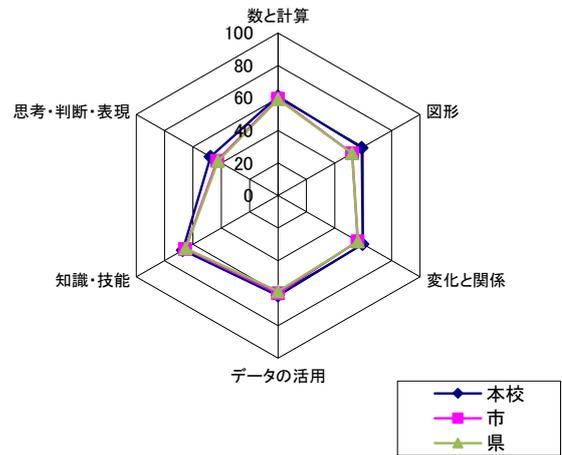
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○第4学年に配当されている漢字を読む問題では、3問中2問の正答率が100%であった。 ●連用修飾語に関する問題は、市の正答率を上回っているものの30.8%にとどまった。	・今後も音読や漢字練習を通して漢字の読み書きの力を高めるよう指導を継続して行っていく。 ・文章の読み取りをする際には、文の構成についても触れるようにし、修飾語がどの語を詳しくしているのか等、理解が深められるようにしていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○漢字辞典の使い方を理解し、調べ方として適切な問題を選ぶ問題において、正答率が92.3%であり、ほとんどの児童が漢字辞典の使い方を理解していると考えられる。	・必要なときにはいつでも国語辞書や漢字辞典が使えるような言語環境をつくり、利用する能力や態度を育てていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○文を読み、適することわざを選ぶ問題では、市の正答率より9.9ポイント上回った。	・ことわざを授業で取り上げたり、ことわざについて調べた自主学习ノートを紹介したりするなどして、今後もことわざや四字熟語等の伝統的に使われる語句に触れる機会を設け、さらに関心を高める。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える問題は、正答率が90%を上回った。 ●相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながらまとめる問題では、正答率が市の正答率より5.9ポイント下回った。	・国語の授業だけでなく、朝の会にスピーチを取り入れるなどして、話の中心に気を付けて話を聞くことや、伝える目的を明確にして話すことを繰り返し指導する。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●問題に示されている(注意する点)を守って自分の考えを書くことができた児童は約40%にとどまった。また、自分の考えを表現することが苦手な児童が見られ、無回答が約30%だった。	・国語の授業を中心として、他教科においても書く活動を取り入れ、一人一人が自分の考えをしっかりともち、自信をもって文章に表現できるよう指導する。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●物語を読み取る問題においては、全ての問題で正答率が、市の正答率を下回った。 ●文章の説明として適するものを選ぶ問題においても、市の正答率より10ポイント以上低く、叙述を基に文章の内容を捉えることに課題が見られる。	・登場人物の心情や情景を想像したり、段落のまとめや関連を意識したりしながら読むことの習慣化につながるような学習活動を取り入れる。 ・引き続き、音読や読書を励行していく。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.0	59.7	59.2
	図形	59.0	52.1	52.1
	変化と関係	59.6	56.1	56.3
	データの活用	61.5	60.1	58.9
観点	知識・技能	67.2	65.5	65.1
	思考・判断・表現	47.7	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

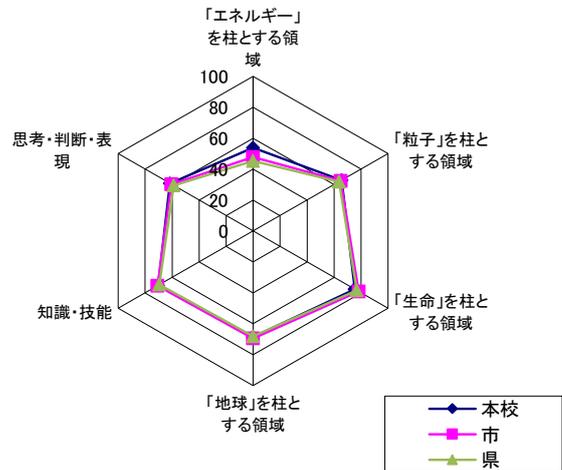
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均よりやや高い。</p> <p>○大きい数の読み方として正しいものを選ぶ問題、小数を集めた数を答える問題では正答率100%であり、小数を集めた数を答える問題においては、市の正答率を7.4ポイント上回った。</p> <p>○数直線をもとに、異分母分数の関係について答える問題では、市の正答率を14.2ポイントと大きく上回っている。</p> <p>●目的に応じて正しく見積もっているものを選ぶ問題では、市の正答率を19.0ポイント下回った。</p>	<p>・様々な場面を想定した問題に触れ、課題を解決する目的を理解した上で、どのように見積もればよいか考える機会を意図的に増やしていく。</p> <p>・問題に慣れていない児童も見受けられるので、1人1台端末のAドリルなどを活用して、数と計算の問題に慣れたり、更に親しんだりできるようにしていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均よりやや高い。</p> <p>○面積の単位の関係を説明した文の空欄にあてはまる数を答える問題では、市の正答率を17.5ポイントと大きく上回っている。</p> <p>●180度より大きい角の大きさを求める問題では、市の正答率を7.3ポイント下回った。</p>	<p>・三角定規や分度器を使って角の大きさについて考えたり、実際に様々な大きさの角を図って求めるなど、具体操作を伴った学習の機会を増やしていく。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○全ての設問で市の正答率を上回った。</p> <p>○2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍9.1ポイント上回った。</p> <p>●伴って変わる2つの数量の関係について、表をたてて見て分かることを説明する問題では正答率が23.1%にとどまった。</p>	<p>・伴って変わる2つの数量の関係を表した表を、様々な角度から見て規則性をも見つけていくことを習慣化していく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均よりやや高い。</p> <p>○2つの折れ線グラフから分かることとして正しいものを選ぶ問題では、市の正答率を13.7ポイント上回った。</p> <p>○条件にあてはまる表の部分を選ぶ問題では、市の正答率を3.9ポイント上回った。</p> <p>●条件にあてはまる人数を答える問題では、正答率が7.7%で、市の正答率を17.2ポイント下回った。</p>	<p>・算数だけでなく、社会の授業や図書室の本、掲示物などの身近な資料の中からデータを読み取ったり、記録したりする経験を重ねていく。</p> <p>・グラフを読み取るときには、表題や縦軸・横軸、目盛りの大きさなどに着目するとよいということを繰り返し指導していき、定着を図る。</p>

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	53.9	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	65.7	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	75.4	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	68.6	69.5	68.1
観点	知識・技能	70.4	70.8	69.5
	思考・判断・表現	61.5	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より高い。</p> <p>○簡易検流計の針のふれ方からわかることを答える問題については、市の正答率を19.2ポイント上回った。</p> <p>●電流が大きくなる回路を選ぶ問題については、市の正答率を8.2ポイント下回った。</p>	<p>・実験の結果についてはよく理解できている。しかし、実験結果を考察しどのようなことが導きだされるかなどを考察することに課題が見られるので、まとめや考察を行う時間を確保し、事実を関連付けて整理する力の向上を図る。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均よりやや高い。</p> <p>○ボールに空気を入れるとはずむ理由について説明した文に、あてはまる言葉を答える問題では、市の正答率を21.9ポイント上回った。</p> <p>●金属をあたためたり冷やしたりしたときの体積の変化について正しい文章を選ぶ問題では、市の正答率を41.1ポイント下回った。</p>	<p>・学習したことを実生活に結び付けて考える機会を設けることで、理解を深める。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○関節の名称を答える問題については、市の正答率を5.3ポイント上回った。</p> <p>●腕を曲げたときの筋肉の様子を選ぶ問題については、市の正答率を13.1ポイント下回った。</p>	<p>・日常生活においても、理科学的な視点を持たせたり、理科にかかわる名称を意識させたりすることなどを通して、知識の定着や思考力の向上を図る。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○天気決め方として正しいものを選ぶ問題については、市の正答率を12.4ポイント上回った。</p> <p>●方位磁針の正しい使い方を選ぶ問題については、市の正答率を14.9ポイント下回った。</p>	<p>・道具の名称や使い方について、正しい使い方を反復して確認し、ひとり一人が実際に使用できる機会を増やしていく。</p>

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」「ぎげや不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」「という質問に対しての肯定割合が市や県の平均を上回っている。学習に対しての意欲が高い児童が多く、真面目に取り組んでいることの表れであると言える。また、家庭学習に関しても、全ての児童が学校の宿題の量は丁度よいと感じているので、今後も児童のやる気を維持しつつ支援していきたい。

○1日の睡眠時間が9時間以上確保できている児童が多く、「早寝、早起きを心掛けている。」の肯定割合が市や県を上回るなど、規則正しい生活習慣が身に付いている児童が多い。

○「だれに対しても、思いやりの心をもってせつしている。」や「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」の肯定割合が100%だったことから、日頃から周りの友達や大人に優しく親切にすることができている。今後も自分だけではなく、他者の気持ちを考えた行動ができるように支援していきたい。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」という質問に対しての肯定割合が市や県の平均を上回っている半面、「いいえ」と回答した児童が30%と市や県の割合より5ポイント以上高く、二極化している。自分の考えや意見を話すことに対して苦手意識をもっている児童が多いので、児童が負担と感ぜない小グループや、日常生活と変わらない雰囲気の中でコミュニケーションをとれる場を設定し、段階的にスキルを身に付けさせていきたい。

●テレビゲームをしている時間が平日3時間以上の児童が5割以上になっていることから、本や新聞などの活字に抵抗がある児童が多い。図書資料や新聞を題材にした学習を取り入れたり、ICT機器との距離感を見直す機会を作ったりするなど、生活習慣の見直しを図る。

宇都宮市立上河内東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
書く力を高めるための取組	条件に合わせた解答ができるよう、様々な教科で学習や場面を利用して書き方の形式を示しながら書かせたり、自分の考えを書いたりする活動を意図的に取り入れていく。	国語の条件に合わせて自分の考えを書く問題や、算数の考えを説明する記述問題では、いずれも正答率が市の平均を下回った。引き続き、重点的な取り組みとして書く力を高めるように手立てを考えていく。
振り返りの質を高める指導法の研究	各単元の終末を中心とした時間で、何が分かったのか、何が疑問点なのかを様々な方法で振り返らせ、主体的な活動を促すとともにその指導法を研究し共有していく。	「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の質問の肯定回答は、4年生が19.8ポイント、5年生が7.4ポイント市の平均を上回った。今後も児童が授業を通して、何が身に付いたのか、自分の考えがどのように変わったのかなどを自覚することができるように、振り返る活動の内容や方法を工夫し、主体的な学びの育成に努めるようにする。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
書くことや説明することの正答率も低く、授業で自分の考え文章にまとめて書くことは難しいと感じている児童が過半数である。	学習過程を工夫する	漢字や音読練習といった基礎・基本定着のための時間を授業の中で確保することや、単元を通して身に付けたい力を育む中で、対話的活動を取り入れ自分の考えを深化させたり自分の考えを書いてから発表させたりする機会を設定し、定着を図れるようにする。